

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

Marimelo株式会社

所在地	東京都渋谷区	設立年	2019年
運営主体	Marimelo株式会社		
事業目標	子供ミュージカルの上演を通して 1:他の芸術に比べてハードルが高いと思われているミュージカルを普及させたい、2:音楽・運動・言葉が一体化した芸術活動が生徒の心身の健やかな育成に非常に効果的であることを実証したい、3:ミュージカルを体験することによって「みんなちがってみんないい (Diversity and Inclusion)」の考えを生徒に身につけて欲しい、4:生徒が普段の生活で触れる機会が少ない「超一流による本物」に触れ、一生宝物になる経験をして欲しい 5:生徒が自分と向き合い、何かを上達させるために努力することを身につけて欲しい		
きっかけ	代表者はこれまでに国内外でミュージカルの上演とそれに付随する啓蒙活動に取り組んできたが、そこでミュージカルが生徒達の心身にもたらす多大な効果があることを実感する。生徒達にミュージカルを体験してもらうことにより、子供たちの心身の健やかな発達を手助けすること、そしてそれによって地域・社会がより豊かになることをめざしたいと思ったため。特に、Diversity and Inclusionという概念を学ぶには最適な芸術である。また、超一流のプロ達と仕事をして、彼らがそこに至るまでに多大な努力をしていることを知った。学生達も、若いうちに自分が好きな物を発見しそれに向かって努力をすることを身につけられれば、大人になってからの可能性が格段に上がるはずなので、それを若いうちに学んで欲しいと思ったので。		
団体・組織等の連携	大学講師達・プロ達と連携することができた。「ちがいを力に変える街」渋谷区とも連携を相談し、最終発表会を後援してもらう算段をとっていたが、コロナ禍でリアルでのリハーサルや発表会を断念したため、最終的な連携には至らず。最終発表会において大手芸能事務所が運営するミュージカルの専門学校との連携も進んでいたが、コロナ禍で実施に至らず。有名ミュージカル劇団に作品の使用許可を得ていたが、こちらもコロナ禍で上演には至らず。		
活動場所	コロナ禍のため、今回はオンラインに特化。そのため、地域密着というコンセプトの実現は難しかったが、逆に、ニューヨーク・カリフォルニア・テキサス・フィリピンなどをつないでオンラインワークショップを実施。		
活動概要	オンラインでの活動に特化。オンラインでのダンスレッスン・歌のレッスン・演技のレッスン・プロになりたい学生のための進学相談などを行う。またバイリンガルでのシアターゲームのワークショップも開催。「みんなちがってみんないい」を標榜しており、不登校の生徒、障がいを持つ生徒、日本語が不自由な生徒なども参加できるプログラムを開催。		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

特別講師としてプロの俳優を雇用することにより、教員の勤務時間は短縮できる。今まで一流のプロに教えてもらった経験のない生徒がほとんどだったため、非常に感銘を受けている。一度も実際に会うことなく、全てオンラインでの開催だったにもかかわらず、9割以上の満足度というのは非常に高い満足度と思われる。また、学校に通えていない不登校の生徒や、知的障害を持つ生徒が参加できたのは、オンラインであったことと弊社が「みんなちがってみんないい」を第一に標榜しているからだ、改めて成果を感じた。

* 受講者アンケート集計結果(下記グラフ)参照

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

「ちがいをちからに変える街 渋谷区」をベースにしているプログラムなので「みんなちがってみんないい(Diversity and Inclusion)」という理念を掲げており、その理念に共感した講師のみを採用している。学校の正規プログラムでないからこそ、障がいを持つ生徒、不登校の生徒、日本語が上手ではない生徒を積極的に受け入れており、実際に数名の該当者が参加している。また、昨今英語教育がますます重要になっているにもかかわらず、英語のミュージカル教室と謳っていても、ほとんどの教室が非常にレベルの低い英語で教えているのが実態。ネイティブと同じ英語力を持つ人プロの俳優は日本に数人しかいないが、Marimeloではその俳優たちを雇用しており、ネイティブと同じ英語力がある人のみが英語レッスンを担当している。また、大学のミュージカル科の教授やプロの俳優達に演技を教えているコーチや現役のプロデューサーもチームに参加しているため、ミュージカルに関する進路相談に対して、非常に貴重な最先端の生きた情報を伝えることができる。

運営上、工夫している点を記載する。

ダントツで「日本で一番魅力的な教師陣」を集めることに尽力している。そのために、代表者のコネクションを最大限に利用し、普通のミュージカル教室では絶対に雇用できない世界レベルのプロを雇用している。代表者がアメリカと日本で現役のプロデューサーとして活躍しているからこそ実現できる驚きの講師陣である。また、そのコネクションゆえに、通常の謝礼の半分以下で教えてもらうことが可能になっている。ブロードウェイの「マンマミーア」のオリジナルキャストや、劇団四季の「ライオンキング」の主演のシンバの俳優、「レミゼラブル」の出演者、子供達が最も出演したい「アニー」で実際に子供達を教えている講師、大学のミュージカル科の教授、そしてハリウッド映画やブロードウェイに子役を送り出している有名なアメリカ人子役コーチなどに参加してもらった。ブロードウェイのマンマミーアのオリジナルキャストが自ら生徒に「マンマミーア」のダンスの振付を教える教室は、日本全国で他には存在しない。その俳優さん達の魅力を生徒達も感じるようで、今回のレッスンを受けた後で初めてミュージカルを見に行ったり、今回初めてミュージカルを経験し、これからも続けていきたいと思っている生徒が何人もいたし、今まで他の教室に通っていたが、今回目から鱗が落ちたと言っている生徒もいた。運営スタッフに関して言えば、プロの舞台の制作者が関わることによってスムーズに進んだことも多かった。将来的にはそのプロのスタッフの下に大学生などのインターン制度を設けて人材を育成していきたい。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記す。今回はコロナ禍のためオンラインのみの開催となってしまう、地域との連携が取りにくくなってしまったが、後援を進めてくれていた渋谷区との連携も可能性は十分にある。渋谷区に関して言えば、「シブヤ科」と連携するのはどうかと提案を頂いたので、将来的には連携を進めてみたい。民間企業との連携も進めていたのももちろん可能であるが、弊社よりもレベルが高く人脈がある会社が存在しない状況でどこまで提携すべきかは検討の余地がある。1番の問題は公演・リハーサル場所の確保である。渋谷区の後援が付いたとしても、渋谷区主催の事業ではないため、ホールやリハーサル室を借りる優先順位が一番高いわけではなく、そこで費用がかかってしまう。その点において、地域文化倶楽部を運営するには地域自治体の協力が必須であると考え。小中高校の校舎や地域の文化センターを優先的に使用させてもらうことで費用の削減が可能になり、プログラムの内容が格段に充実する。

会費は、受講者にとって妥当な金額での運営が可能だと言える。しかしながら、参加生徒数が少ない場合や活動場所を低額で確保出来ない場合は、講師への謝礼や運営費を確保するために自治体の補助金制度や民間の基金等の利用は必須である。こういった状況は解決すべき課題であると言える。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

部活動の教育的意義は地域に移っても大きく変わることはないが、地域に移ることによって学校や学区を超えた取り組みができる。例えば、不登校の生徒も地域の活動であれば参加できる場合もあるし、受け皿さえあれば、日本語が話せなくても、障害があっても参加できることは非常に大きな利点である。また、教員による指導ではなく、プロの講師が指導することにより、芸術鑑賞会の効果を同時に得ることができる。

学内の部活動は文化的なことを学ぶこと、生徒同士が協力しあって目的を達成すること、自己研鑽すること、放課後の時間を有意義に過ごすこと、など様々な目的があるが、地域に移行されたあともそれは全てカバーされる。

希望する教員は、地域の活動にオブザーバー的に参加すると良いと思われる。それによって教員は実技の指導方法やその芸術を学ぶことができるし、地域活動の講師達は教員から安全確保・危機管理等の知識・技術・学校や生徒の現状を学ぶことができる。

その地域の学校が活動場所を提供すれば、(特に首都圏では)金銭的な余裕が生まれ、また生徒の利便性もはかれる。通い慣れた学校で行われれば、生徒も保護者も安心できる面がある。ただし、学校が負う責任というものは非常に少ないと思われる。場所の提供者としての責任の範疇に限られるのではないかと。教育委員会が関わることによって、地域での活動を逆に学校の正規授業に持ち込める可能性が出てくると思われ、これはこれから大いに検討すべき事案である。また学校が場所を提供できない場合は、社会教育施設や文化センターで行うことが望ましいと考える。

教員の負担軽減策としては、教員はあくまで時折参加するオブザーバーまたは指導補助的立場となり、実際の指導は倶楽部が派遣する講師に委ねる、あくまで地域の倶楽部活動であるため、指導員の主な構成員は民間の指導者となり、教員への負担は減る。更に、民間のプロの指導者が教員にレクチャーをするシステムを構築することで、教員自身が資料を集めたり指導スキルを自力で勉強するといった校外労働時間の削減につながる。弊社は教員を対象としたレクチャーを積極的に開催することが出来る人材とノウハウを有するので、教員の校外での指導準備に割く労働の負担を減らすことが出来ると思える。

総じて、活動場所の確保、学校との連携共に自治体の協力がなしには成立しないと言えよう。今後、自治体予算に地域文化倶楽部費が含まれるのであれば、クラブ活動を執行する団体との連携はよりスムーズに行われ、有能講師人材の確保、保険加入有無や活動場所の確保などが的確に遂行出来るのではないかと。その点では、渋谷区との連帯を図ることを第一に考え、自治体を起点として学校や生徒たちとの更なる連携を図ることを念頭に活動していきたい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	対象学年:小中高生 参加人数:60人
募集方法	インターネットでの募集
指導者	20人(内訳は下記) ミュージカル俳優 14名 演劇教育専門家(教師)3名 演劇スタッフ 3名
移動手段	今回はオンラインのみなので無し
活動費用	今回はオンラインのみなので無料
スケジュール	コロナ禍のため、2月3月でオンライン実施
保険加入等	今回はオンラインのみなので無し

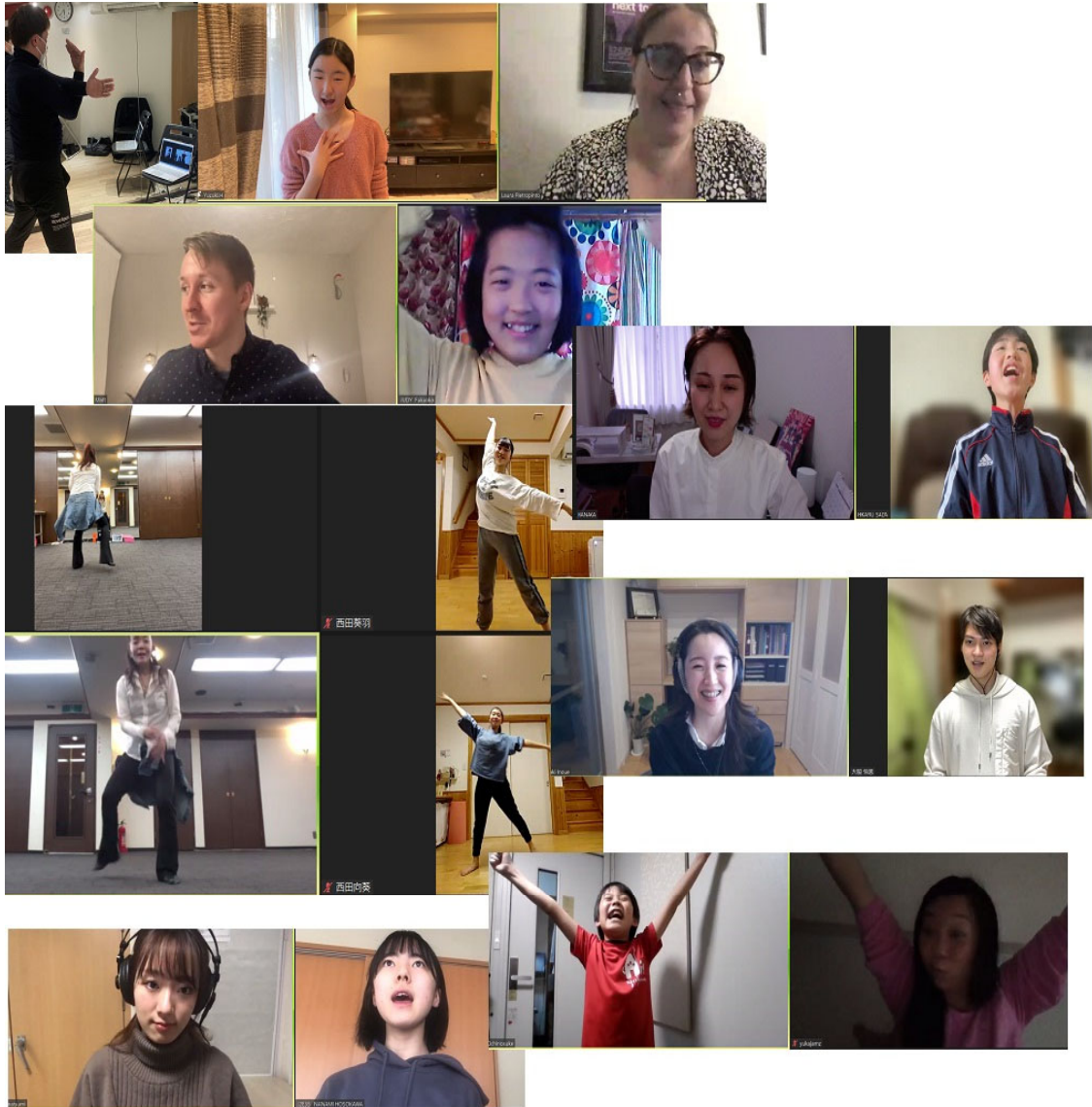
※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

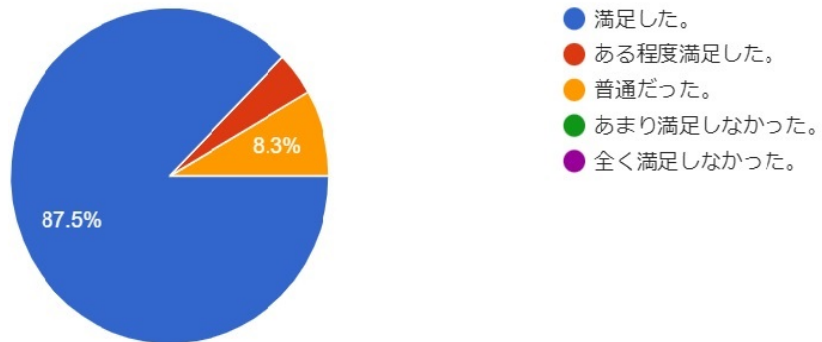
※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自
記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏ま
観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子（写真添付）】



レッスンの満足度をご回答ください。

24 件の回答



今回のレッスン内容は、提供する側のクオリティーや受講者側の満足度という観点から、学校での現クラブ活動に代わる役割を担うことができるものかどうか評価ください。



24 件の回答

